

# アルベトレッペとは?

## ALBETREPPE

茨城は  
いいモノあるべ、いいモノとれっぺ。

アルベトレッペは、茨城の良いモノやコトを  
全国へ、世界へ紹介していくプロジェクトグループです。

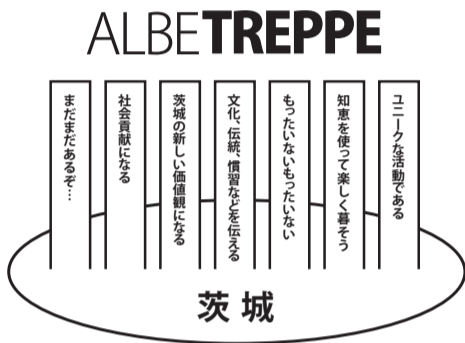
日本全国どこに行っても、似たようなものばかり。「名物」や「特産品」は、どこかの焼き直しや、何かのモノマネばかり。ちょっとだけ話が先行したり、プロモーションが話題になったりしたものだけが、もてはやされています。そんな大量生産・大量消費・大量廃棄の「ファスト・エコノミー」の時代も、そろそろ終わりの兆しが見え始めています。

経済最優先の今までの価値観から、精神的満足を満たす暮らしへの移行。大都会発の情報が本当にいいものばかりなのではないでしょうか? 実はそれはニューヨークやパリの模倣だったりします。価値観が変わりつつある今だからこそ、地方から見えるものがあるのではないだろうか。「ブランド力のない」茨城だからこそ、できることがあるのではないだろうか。茨城発の新しい価値観を、全国へ世界へ紹介していきたい。茨城の暮らしに根づく「価値」にもう一度光をあて、きちんと発信していくべきだ。私たちはそんな事を考えて、あれこれやってみようと、自然発生的に集まったグループです。

トヨタがボルシェやベンツに匹敵する世界に通用

する車を出そうとした時に、トヨタの社名を出さずに「レクサス」というセカンドブランドを創り、今までのトヨタイメージに引きずられないまったく新しいブランド価値を生み出しました。「茨城」という言葉を使わずに茨城を表す。アルベトレッペはレクサスに習いました。(笑)

「自分たちの住む所に誇りを持つ」。本気で暮らしを楽しんでいる個性豊かなメンバー達が、茨城の本当に良いものの情報を、いろいろなカタチで魅せてまいります。よろしければその仲間にもなりませんか? 地元の方はもちろんですが、茨城にご縁がなくても大歓迎。フェイスブックやHPも是非ご覧ください。



### ■主なメンバー

会社経営者、農家、養豚家、漁業、養蜂家、金融機関社員、団体職員、編集者、ライター、グラフィックデザイナー、Webデザイナー、ラジオパーソナリティ、システムエンジニア、ラジオディレクター、フォトグラファー、インテリアデザイナー、市議員、大学教授、主婦など

メンバー募集中!  
詳しくはHPで ↓ 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町313-1 (有)ビーハビィ・エンタープライズ内  
代表 山本恵 Tel.029-246-2848

<http://albetreppe.jp/> <http://www.facebook.com/albetreppe>

れて、そのあとで、私が日本語で朗読した。也斯は、会場で聞き入る来場者たちに、自ら以下のような紹介してくれた。

...この詩は、西野さん本人と大きく関わっています。水戸を訪ねたとき、西野さんが当地の名物「あんこう鍋」の夕食に招待してくれました。「あんこう」というのは、すべてを食べることのできる興味深い魚で、美味しい鍋を食べながら、私たちはいろいろな話をしました。水戸は歴史のある街で、また現代美術を紹介するすばらしいミュージアムを持っています。水戸芸術館では、ちょうど「オノ・ヨーコ展」が開かれていました。私はこの2つからひらめきを得て、この詩を書いたのです...

この会では、也斯の作品が9カ国語で朗読された。「旅する作家」と呼ばれるくらいに、若い頃から世界中を訪ね、その土地の文化と食をテーマに作品を書き、あたたかく朗らかな人柄で、世界中に友人のいるこの作家だから実現した、特別な企画だった。

彼の創作の特徴は、「対話」だと言われてきた。特別展示には、彼がこれまで取り組んで来た、他のジャンルの芸術家たちとの「共同製作」がたくさん再現された。彼の詩と写真のコラボレーション、彼の小説を読んだデザイナーが登場



人物のために衣装をデザインし、ファッションと文学のショーが開かれたこともあるし、彼の作品がモダンダンスで表現されて詩とダンスのショーが行われたこともあった。也斯は、伝統的な中国文化と、現代香港のモダンな文化の両方と「対話」してきた、と評されることもあるし、世界中の文化・芸術との「対話」によって作品を生み出してきた作家である、とも言われる。

相手ときちんと向き合い、楽しく、そして真摯に会話を重ね、お互いをよく理解し、そこから共になにかを生み出していく。そういう「対話」は、それほど簡単なことではないだろう。

notesのコーナー「アルベトレッペ通信」では、理事メンバーのほか、西ノ内和紙の職人で、漆の活動にも取り組む菊池三千春さん、農ファッションなどを手がけるA-rueの藤井優子さん、陶芸家・菊地弘さん、高知・四万十ドラマの畦地履正さん、などと電話をつないでお話をうかがってきた。8月には、也斯の詩を紹介した。「アルベトレッペ」のめざすのも、地域の魅力、伝統と現代、すばらしい方たち、...との「対話」でありたい。

[西野由希子]



# ALBETREPPE

茨城にはいいモノあるべ、いいものとれっぺ。新しい価値を見つけるプロジェクト!  
アルベトレッペの広報誌 Vol.3 2012年冬号(不定期) <http://albetreppe.jp/>

通信



## 「対話」から、生まれる。



2012年7月21日、香港コンベンション&エキシビジョン・センター。一週間の会期中に約100万人が来場する「書籍と文化の」大イベント「香港ブックフェア」の会場で、「多言語による也斯の詩の朗読会」が開かれた。也斯(イエス)は現代香港を代表する詩人・作家。その詩や小説は、香港や中国語圏で読まれているだけでなく、英語、日本語、ドイツ語、フランス語などさまざまな言語で翻訳され、紹介されてきた。

3年前から「今年の作家」を選んでいる「香港ブックフェア」は、「2012年の作家」に、この也斯を選び、会場内には、彼のこれまでの創作活動を紹介する特別展示のコーナーが設けられた。記念の講演会、パネルディスカッション、そして、也斯の創作を体現するような、この「多言語による朗読会」。朗読会には、也斯本人のほか、彼の作品を各国語に翻訳し、研究し、長年、親しくつきあい、彼の作品と人柄をよく理解する世界の友人たちが集まった。

スウェーデン人の女性研究者が進行役をつとめ、也斯の詩を、複数の言語で朗読していく。キュービン先生がドイツ語で朗読、その後、香港人のソニアが同じ詩を広東語で読む。ジェラルドがフランス語で読んだあと、グレンが英語で、というように。私は、自分が日本語に翻訳した2編の小説の一節と、也斯が水戸を訪れたのちに作った詩「あんこう鍋」を選んだ。「あんこう鍋」の詩は、也斯本人が広東語で朗読をしていく

(中画へ続く)

## 選定されました!

「アルベトレッペの活動」が、いばらきデザインセレクション2012に選定され表彰されました。

「いばらきデザインセレクション」は、茨城県の産業イメージやブランド力を高める優れたデザインを選定し推奨することで、デザインの重要性の啓発と地域産業の発展を推進するものです。選定された商品や活動は、「いばらきデザインフェア」において、表彰・展示され、県知事名による選定証が授与されます。【茨城県デザインセンターのHPより】

この受賞はアルベトレッペが具体的に何かをデザインした事をご評価いただいたのではありません。再度上記のHPの言葉を借りれば、「デザインは、かたちを美しく整える仕事というだけでなく、さまざまなモノづくり、コトづくりに関わりながら、生活の質の向上と地域文化の醸成に貢献しようとする日常のかつ人間の行為です。」という事で、私たちアルベトレッペの様々な活動にご評価いただきました。特に昨年開催した「アルベトレッペ食堂」への評価は高く、審査委員長・蓮見孝先生(筑波大学名誉教授)より直接励ましのお言葉を頂きました。(山本会長と倉田が出席) 今後は「いばらきデザインフェア2012東京展」で展示されます。



IBARAKI  
DESIGN  
SELECTION  
2012

### いばらきデザインフェア 2012 東京展

■日時:12月1(土)→3日(月) (入場無料)  
11:00~19:00 最終日16:00

■場所:2k540 AKI-OKA ARTISAN  
マルチスペース、イベントスペース  
東京都台東区上野5-9  
(山手線 秋葉原駅と御徒町駅間の高架下)  
<http://www.jrtk.jp/2k540/>

